

# 通信小海

## 最も安全な国に

牧師 水草修治



「日本を世界でもっとも安全な国にしたい。」首相は、通学中の子どもが襲われる事件が続いたことを背景に先の国会の冒頭このように発言した。安全な社会、確かにそれは全ての国民の願いである。けれども、現在与党が中心となって進めようとしている改憲は、日本社会に犯罪を激増させるであろう。九条を変えれば、日本は米国のように戦争をする国に変わるからである。

二 四年、米国における殺人・強盗・強姦等の凶悪犯罪件数は一三七万件に上る。日本では、一万三千件である。人口比を勘案すれば米国で凶悪犯罪に巻き込まれる確率は

△今月の御言葉▽

「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」マルコ福音書十二章三十一節

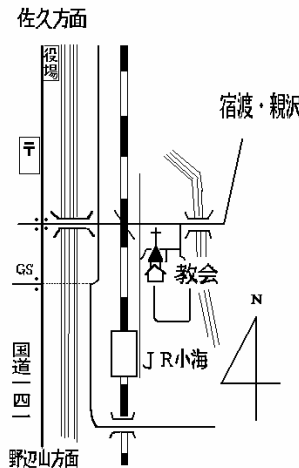
日本の五 倍である。

米国では銃の所有が認められているから凶悪犯罪が多いのだと言う人が多いが、理由はそれだけではない。米国で凶悪犯罪が激増したのは、ベトナム戦争後のことである。太平洋戦争後、兵士たちに「あなたは戦争で敵兵を殺したか？」と無記名のアンケートが取られた。結果、七割から八割の答えはNOであった。多くの兵士は空や地面に向かって銃を撃っていたのである。人間は、まともな神経では殺人はできないのであろう。この結果を重く見た軍部は、固定された丸い標的に向かって撃つという射撃練習法を、人形が飛び出すと反射的に撃つという方法に変えたそののである。ベトナム戦争後、同じアンケートを取ったところ、兵士たちが敵を撃った数は九割に達したという。

ベトナム戦争での米軍戦死者は五万八千人、帰還兵は五十万人に上る。帰還兵の多く

日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治  
会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七  
千三八四一一 二二 二六七九二四七七六  
カンパ宛先〒振替005300 61683

## 見晴台の教会へどうぞ



## 集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

\*海尻・川上で毎月家庭集会あり。

\*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

が、ノイローゼに陥り自殺者数は戦死者数を超えており、帰還兵たちの犯罪件数が異常に多い。戦地で「暴行・殺人・放火・爆破」を仕事にさせられてきた人々が、正常な社会に再適応するのは簡単なことではない。米国は外地を戦場として来たが、それでも戦争は米国内に跳ね返ってきている。

戦後、基地に駐留する米兵に殺害された日本人の数は千人を超える。今後、九条改変をして日本の「軍隊」が米軍や国連軍の戦争に加担するならば、戦地で「暴行・殺人・放火・爆破」を仕事とするという異常体験をしてきた日本人が社会に増えていく。そのとき、この日本社会に凶悪犯罪が増えることは火を見るよりも明らかである。

本気で日本を世界一安全な社会にしたいと願っているならば、警察の強化より、まずは九条を守ることが必要なのである。  
聖書の言葉。

「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」マルコ十二:三十一

## 福音指圧教室

春のきざしが、空にも山にも感じられるようになりました。活動を始める



前に、硬くなったからだをほぐしておきましょう。福音指圧教室、気持ちいいですよ。

### 四月十五日午後2時

持ち物 バスタオル、タオル、くつした

## 海尻井出博彦さんち で家庭集会

第一、第三木曜夜七時半から九時、聖書を読む会をしています。ご一報くださってお越しく下さい。  
**96 2534**

## 南相木でも家庭集会

### 四月第二木曜日

関心ある方は牧師にご一報ください。

でんわ 九一 四七七六

## 感謝!

### 古毛布が足りました

### 信州から野宿者支援

「ひびき」の購読者を募っています。誌代なりに送料は無料です。はがきに氏名、送付先と部数を書いて芦谷の事務局に送ってください。\*未使用切手のみ募集中

山谷農場事務局(藤田 寛)

小海町芦谷ヒルサイドコーポ一 一号室毎週  
金曜・土曜はあります。電話090・1436・  
6334 777042・786・2088

# とげは抜かれた



昨夏、本紙にペットボトルで簡単に作れる「スズメバチホイホイ」を紹介したら、何人かの方からたくさん安全にスズメバチが捕れたとのこと報告をいただいた。オオスズメバチを漬けた焼酎は、八手刺されの特効薬なので重宝されたとのことである。今年も四月から六月にかけて女王蜂が巣づくりをし始めるので、そろそろスズメバチホイホイを仕掛けておけば、夏場のスズメバチ大量発生という危険を免れるであろう。

ところで、なぜ私たちは八手を怖がるのだろうか？ 言うまでもなく、そのとげが恐ろしいのである。実際、毎年日本で熊などに襲われて死ぬ人よりも、スズメバチの襲撃にあつて死ぬ人の方が多い。しかし、もし八手から刺を抜き去る

ことがきたならば、私たちは八手を怖がる必要がなくなってしまうだろう。とげのない八手が飛んできたら、子どもたちは喜んでトンボ網で捕まえておもちゃにしようにちがいない。

聖書に、次のようにある。

「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエスキリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。(一コリント十五五五 五七)

もう二十五年も前、末期ガンで入院していた空手の先生を大病院に訪ねた。最初の見舞いでお話をつかがえば、彼は自分で一つの流派を開いたとのことで、初対面の若い私に、さまざまに自慢話をしてくださった。しかし、二度目に訪ねたときは具合が悪そうで、死の影におびえていることがありありとわかった。どんなに鍛え上げた肉体も精神も、死に打ち勝つことはできない。死は恐怖の大王なのである。

人はなぜ死を恐れるのか。死にはとげがあ

るからである。死のとげは罪である。造り主である神は、私たちの良心に「父母を敬え、殺すな、姦通するな、盗むな、うそをつくな」といった律法を刻んでおられる。だから、私たちは罪を犯すと、たとえ人が見ていなくても良心がうずく。そして、罪が償われないままに人が死を迎えるならば、神の聖なる法廷で有罪判決を受けねばならない。だから死は恐ろしい。

しかし、二千年前、神の御子は人となってこの世に生まれ、その一身に罪の罰と呪いを受けて私たちの罪の償いをしてくださいました。あのゴルゴタの丘に立つ十字架にはりつけにされた罪の無いあの方に、すべての罪のとげが突き刺された。こうして、信じる者たちに対する罪の呪いは去ったのである。

二十五年前、もう一人の入院患者を訪ねた。六十少し前の小さなご婦人だった。彼女は自分が末期ガンであることを知っていたが、その顔は平安に輝いていた。「イエス様がわたしの罪を背負って十字架に苦しんでくださいました。その苦しみを少しでも味わってから、イエス様のご愛を知ってから天国にまいります。」と彼女は微笑まれた。

〔作文の話〕

## 作った人が一番よく知っている



十年ほど前からパソコンを使ってものを書いてる。パソコンを使っているけれども、なぜキーを押せば画面に文字が現われるのか、膨大なデータがあんな小さなチップに保存できるのか、複雑な表計算が瞬時にできるのかなどといったことは、私にはさっぱりわからない。ただ、ボタンを押すと答えが出てくることだけがわかっているにすぎない。

けれども、パソコンの設計者・製作者は、パソコンの仕組みの隅々までちゃんと知っているのであらう。私とは別世界の人といった感じがする。

何事もそうであって、道具を作った人の道具への理解度は、ただ道具を利用して人の理解度とは、比べ物にならないほど

深く豊かなものである。

この春から、中学教員をしている友人の勧めで作文教室を開くことにした。彼はクラスの子どもたちのテストの答案を見ていてあることに気づいた。数学の成績の低い子どもは、文章題には最初から手をつけようともしないののである。

「なぜ文章題をやらないの？」と聞いたら、「だって、わからないもの」と言う。数学以前に日本語の文章が正しく理解できないのである。しかも、文章題は計算題の数倍の配点だから良い点がとれるわけがない。ことは全科目におよぶ。そこで、彼はクラスの子どもたちに作文を書かせることにした。それも漫然と書くのではなく、いかにすれば人に伝わる文章を書けるのかと工夫をしながら書く。結果、クラスの全科目平均点が十パーセント上がった。成績向上に、遠回りに見える一番の近道が作文であった。

人に読んでもらうための文章を作り続けていると、まず日常生活からいろいろなことに関心を抱き考えるようになる。また、どんなふうに表現したら、わかっ

てもらえるだろうかとか文体や構成を工夫するようになる。すると、人が書いた文章について、いままでぼんやりとしか読めなかったのが、はつきりと筆者の意図が見えてくる。ものを作る人は、作られたものをただ利用する人よりも、はるかにその仕組みが理解できるからである。

「自分のことは自分が一番よく知っている」という人がいる。しかし、果たしてそうだろうか。私たちには案外自分のことが見えていないからこそ、昔の哲学者は「汝自身を知れ」といったのではなからうか。そして、私たちがよく生きることができないのは、実は、私たちが自分自身のことを知らないからなのである。私たち人間は、自分自身を造ったのではないから、自分のことを知らない。よく生きるためには、私たちが造ってくださり、私たちのことをよく知っていらっしやるお方に従うことが必要なのである。そのお方こそ、聖書を通して語っていらっしやる神にほかならない。

「神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。」創世記一：二十七